

にも通信

Vol.06

令和4年度 第2号
令和4年9月吉日

にも
包括

精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることができるよう、
包括的なシステムを構築していく取り組み

“協議の場” 2年ぶりの開催

「天高く馬肥ゆる秋」半袖にしようか、長袖にしようか迷う季節になりました。にも通信も第6号です。

去る令和4年9月9日に、令和4年度第1回精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議（通称：協議の場）を対面にて開催することができました。（29機関 33名が出席）

協議の場は、主に市内における包括ケアシステムの構築状況の確認やその他の会議等で抽出された課題についての検討を行います。

この2年間は書面開催となりましたので、

「さいかい（再開・再会）」をテーマとし、意見交換を中心に行いました。今年度の協議の場から、医療機関や相談支援事業所等の支援関係者、地域移行支援ピアサポーター等に加え、新たに家族にも参加いただきました。



事務局からは、にも包括に関する国の動向や今年度の取組について説明を行いました。今年度、特に力を入れる取組として、

「地域移行・地域定着」

「ピアサポーターの活用」

を挙げさせていただきました。

本市の特徴

精神保健福祉に関する資料からわかる本市の特徴

出典：685調査、ReMHRAD、市商研

入院者の状況

1年以上入院している人の約**6割**が町田市や八王子市等隣接する**市外**の医療機関に入院している。

入院者数	R2年度
市内病院	市外病院
233人 (38.9%)	365人 (61.1%)
南区：162人	町田市：95人
緑区：71人	八王子市：55人

入院期間と入院者数の変化

入院から、**6ヶ月未満**の入院者は**減少**傾向にあるが、**6ヶ月以上1年未満**の入院者は**増加**傾向にある。

年	1ヶ月未満	1ヶ月以上3ヶ月未満	3ヶ月以上6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満
H29	76	120	109	69
H30	77	118	62	91
R1	83	98	83	103
R2	69	83	67	117
R3	59	81	68	119

サービス利用の状況

グループホームが約**2倍**に増え、訪問看護の数も強調に推移している。就労系サービスの利用割合は精神障害者が多い。



地域移行・地域定着

今後の取組は・・・



医療機関のアンケート調査 9-10月	アンケート結果から 11月以降	ピアサポーターの活動との連動
入院状況や退院に向けた取組等の把握	地域移行が進むための取組をコアメンバーと検討	地域生活のイメージを持てるヒントが見つかったツール作りなど

地域移行支援ピアサポーター

地域移行支援ピアサポーターについて

現状と課題

- ▶ ピアサポーターの養成は進んでいるが、**実際の活動が少なく、その活用が課題**
- ▶ 病院、訪問看護、障害福祉サービス事業所、行政等の**多様な機関との連携・連携が必要**

今年度の取組

- ▶ 退院後支援で使用する「わたしの元気 みなもとプラン」への助言
- ▶ ピアサポーター自身が作成した「わたしの元気 みなもとプラン」を入院中の患者さんに届ける
- ▶ 入院中の患者さんとのメッセージ交換（地域生活に関する素朴な疑問Q&A）
- ▶ 支援者向けにリハビリ体験を伝える

入院中の患者さんに元気になってほしい

「退院はよいものだよ」「もっと楽に考えて」と伝えたい

患者さんに会いたいけど、コロナだから、せめてメッセージを送りたい

元気に活動している姿をみてほしい

ご協力のおねがい

「わたしの元気 みなもとプラン」をお届けする医療機関を募集しています！！
ピアサポーターがリハビリ体験をされる場やそうした機会を求めている寄附情報がありましたらお声かけください！！

グループに分かれて意見交換

ランダムに分かれたグループごとに自己紹介、近況報告をした後、報告に関する感想や意見を共有しました。以下、参加者の声を一部抜粋したものをご報告いたします。



参加者の意見・感想

地域移行を進めることには賛成だが、当事者の声によく耳を傾けてほしい。
実際問題として、退院後のアパートを借りるといった時点でかなりのハードルがあったりする。

グループホームについては、計画などでも事業所数を増やすことを掲げているが、実際には精神障害者への理解のあるグループホームが増えていかないといけないことに気付いた。

意見交換をとおして、支援者とピアサポーターとの視点の違いを感じた。
当事者だから分かる辛さもあり、寄り添えるのではないかなと思う。サポートがあれば生活できることを伝えたい。

「仕組みづくり」が共通のキーワード。入退院時における連携や地域移行について、現状では個人の力量に左右される要素が強く、こうした「仕組みづくり」も必要となっているのではないかな。

今回は、「さいかい（再会・再開）」をテーマに、顔を合わせて話せる機会を持つことができました。意見交換では2年というブランクを感じさせない熱感があり、時間が足りないほどでした。様々な視点からの活発な意見交換の内容を踏まえ、にも包括を意識した地域づくりを目指していきたいと考えています。

協議の場は年度内にもう1回開催を予定しています。また、アウトリーチに関する研修会も予定しておりますので、詳細が決まり次第周知したいと思います。



にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。
事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。
電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

<精神保健福祉課> ☎ 042-769-9813 ✉ seishinhoken@city.sagamihara.kanagawa.jp

